

第5回理事会・第2回臨時社員総会議決

平成26年度

事業計画書

平成26年4月1日から
平成27年3月31日まで

公益社団法人 新化学技術推進協会

平成 26 年度事業計画書

「基本方針」

新たな化学技術の開発により、我が国の諸産業の発展ならびに国際競争力強化とプレゼンスの向上を図り、社会の持続的発展と経済の健全な成長に寄与することを目指す。

この目的を達成するために、グリーン・サステイナブル ケミストリー (GSC) を中核に据え、以下の 4 項目を柱として、長期的展望をもって継続的かつ一貫性のある活動を推進する。

- ① 化学技術戦略の立案と社会への発信および政策への提言
- ② 化学技術に関する交流・連携の推進と情報の発信
- ③ GSC の普及活動や若手研究者への研究支援
- ④ 人材育成などの提案と事業の推進

「平成 26 年度事業方針」

1. 基本方針に基づき、以下の具体的活動を推進する。
 - ① 平成 23 年度に策定した「化学産業が目指す 5 ヶ年の化学技術戦略」に基づいて平成 25 年度まで議論し取りまとめた提言を踏まえて、それらを深耕、発展させた議論を進める。また、新たなプロジェクト提案や知的財産に関する調査・議論を推進する。
 - ② 産学官の交流連携を一層推進することを目的に、化学関連団体、ユーザー産業等との情報交流の機会を増強する。また、化学産業の社会への貢献および協会活動の成果を広く社会に発信する広報活動に積極的に取り組むとともに、平成 25 年度から開始した講演会のウェブ配信の一層の普及に努め、情報の共有化を進める。
 - ③ 若手研究者に対する研究支援を継続して実施するとともに、「独創的・萌芽的研究」としている支援対象を拡大する検討を進める。また、支援研究の成果を発表する機会を拡充するとともに、継続的な支援の仕組みを検討する。

- ④ 初等から社会人までの一貫した化学人材育成を目標に、大学・大学院教育支援活動において、キャリアパスガイダンスなど協会の特長を活かした活動の拡充を検討するとともに、中高理科教育支援についても他学協会との連携を含めた支援の充実に努める。
2. GSC ネットワーク活動と戦略委員会およびフロンティア連携委員会活動の連携をより深化させ、一体的な活動の達成を目指す。また、GSC に関する国際連携活動の強化を図り、平成 27 年度に主催する JACI/GSC シンポジウムと GSC 国際会議 (GSC-7) の合同シンポジウム開催に向けた準備を着実に進める。

「事業実施内容」

<公益事業>

1. 新化学技術に関するメッセージの発信、テーマの発掘と調査研究・普及啓発、人材育成等に関する事業 (公 1)
- (1) 新たな化学技術に関するメッセージの発信 (公 1-①)
化学技術の最新動向など新化学技術に関するメッセージを広く社会に情報発信するため、シンポジウムやフォーラムなどを開催する。また、ニュースレター、ホームページ等を活用した広報活動を通じて、化学産業からのメッセージを社会に伝えていく。
(企画運営会議)
- (2) 新化学技術に関する調査研究及び普及啓発の推進 (公 1-②)
「先端化学・材料」「ライフサイエンス」「電子情報」「エネルギー・資源」「環境」の 5 領域について、新化学技術に関する調査研究、普及啓発事業を行う。また、最新情報を講演会やセミナーの開催により伝達するほか、ウェブ配信等の手段でリアルタイムに講演内容を広く発信する。
(企画運営会議・フロンティア連携委員会・技術部会)

2. 他団体等との協働により推進する産学官連携事業及びアカデミアを対象とした研究助成事業（公2）

(1) GSCの普及推進（公2-①）

グリーン・サステイナブル ケミストリー(GSC:人と環境にやさしく、持続可能な社会を支える化学及び化学技術)の普及・啓発活動を推進する。特に、GSCに関わる国際会議を平成27年7月にわが国で当協会が主体となって開催することを踏まえ、着実に準備を進める。

(GSCN会議・GSCN運営委員会)

(2) 産学官連携による人材育成支援（公2-②）

大学・大学院生に対して行っているキャリアパスガイダンスの拡充等を検討する。また、理科教育支援を求める小中高と支援可能企業との橋渡しや教材作成など、他学協会との連携を含めた支援の充実に努める。

(企画運営会議・戦略委員会・人材育成部会)

(3) 関連団体との協働（公2-③）

学協会等が実施する新化学技術の推進のためのイベント等に積極的に参加するとともに、連携を強化する。

(企画運営会議・戦略委員会)

(4) 研究奨励賞の授与（公2-④）

新産業の創出や社会の持続的発展に資する研究を行っている40歳未満の若手研究者に対する研究支援を引き続き行う。今後は、独創的萌芽研究から出発して、一定の成果を出しつつある研究をも支援対象に加える方向で具体化していくことや、受賞者の成果発表機会を拡充するとともに、継続的な支援の仕組みを検討する。

(企画運営会議・フロンティア連携委員会・技術部会)

3. 新化学技術に関わる戦略の立案および社会・国レベルの課題に関する政策提言を行う事業（公3）

平成23年度に策定した「化学産業が目指す5ヶ年の化学技術戦略」に基づいて、将来に向けて化学産業が貢献すべき以下の7課題、「食料・水の安定確保」、「エネルギーの確保」、「原料資源の確保」、「多様化する市場ニーズへの対応」、「将来のライフスタイルを先取りした製品・サービス等の

提供」、「産業プロセスの高効率化」、「地球環境と社会・産業の共生推進」について平成 25 年度まで議論し提言を取りまとめてきたが、本年度は、それらを深耕、発展させた議論を進める。

(企画運営会議・戦略委員会・戦略提言部会)

<その他の事業>

4. 新化学技術の振興に向けた会員間の協働と連携による事業 (他 1)

(1) トップフォーラムの開催 (他 1-①)

本年度よりトップフォーラムを、公益事業として行っている特別フォーラムと統合する。なお、会員企業のトップ経営層の交流と意見交換の場の提供について、新たな仕組みの検討を行う。

(企画運営会議)

(2) 新化学技術に関する戦略的研究開発プロジェクトの企画・立案と提案 (他 1-②)

平成 25 年度はプロジェクト部会にプロジェクト提案のための研究会 1 件および WG 6 件を設置し、WG の内 3 件を研究会に移行させたが、本年度も引き続き、戦略提言部会やフロンティア連携委員会との連携を深めつつ、新たな WG の設置や研究会移行など、プロジェクト提案に向けた積極的な活動を行う。

(企画運営会議・戦略委員会・プロジェクト部会)

(3) 化学分野の知的財産に関する情報の共有および議論 (他 1-③)

化学産業全般に共通性の高い知的財産事項に関する調査、研究、および議論を引き続き進める。

(企画運営会議・戦略委員会・知的財産部会)